



水産土木チームの展示状況（生きている水産生物にふれてみた）



ものづくりサステナフェア 2023 への展示報告

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 水産土木チーム

7月20日(木)、アクセスサッポロにて「北洋銀行ものづくりサステナフェア 2023」が開催されました。4年ぶりの開催となった今回は、出展者(136社・団体)、来場者(約4,000名)と多くの方々の来場があったようです。

水産土木チームからは、寒地土木研究所のブースにて岡山県倉敷市の魚礁メーカー海洋建設株式会社と共同開発したナマコの間育成礁「ナマコのゆりかご」を展示しました。

「ナマコのゆりかご」は、幅60cm、奥行きと高さが各55cmの高密度ポリエチレン製ネットの中に、ホタテの貝殻を25枚ほど並べた円筒形のパイプを上下2段に3本ずつ配置した構造になっており(総重量約45kg)、漁港内など静穏な場所に設置して使用します。過去の実証実験においては、「ナマコのゆりかご」に種苗を放流することで稚ナマコの生存率を大幅に上昇させることに成功しています。またホタテの貝殻に付着した微生物等の有機物が餌となり、ナマコの成長を



促進する内部構造になっています。

ナマコは中国料理などで黒いダイヤと呼ばれ珍重されていますが、北海道のナマコはいぼが多い独特の形状から特に人気があり、高値で取引されています。「ナマコのゆりかご」は、漁業地域の活性化に寄与するナマコの資源回復と安定した漁獲量の維持のために、各自治体や漁業関係者から注目されています。



寒地土木研究所の展示ブースの様子



「ナマコのゆりかご」の展示状況